

平成 28 年 12 月 6 日

東松島復興推進員だより(第 29 号)

～地を往きて走らず～

JICA 地域復興推進員(宮戸担当)

秋山 千恵

東松島市の宮戸地区では、東日本大震災以降「宮戸夏まつり」を実施しています。8 月 5 日に開催された宮戸夏まつりは、今年で 6 回目を迎え、復興と鎮魂を願い、宮戸島の 4 浜が共同で行っています。地域住民が主体ではありますが、医療法人、復興支援団体、ボランティアなど多くの方が協力をしています。JICA 地域復興推進員も準備、運営、片付けと協力を続けており、今年は、初めて「JICA ブース」を出店しました。今回の推進員だよりでは、宮戸夏まつりと JICA ブースの様子についてご報告したいと思います。

〈ステージイベント〉

宮戸夏まつりは宮戸地区の子供たちによる「宮戸島太鼓」で幕を開けます。今年から宮戸小学校と野蒜小学校が統合し、宮戸の子供たちは宮野森小学校に通っています。この日のために子供たちは練習を行ってきましたが、本番ではその成果を発揮しました。カいっぱいの演奏に、来場した住民たちからは大きな拍手が送られました。



【宮戸夏祭りポスター】

今年のテーマは「花火に映える島」



宮戸島太鼓を演奏する子供達

宮戸夏まつりは、老若男女、島中の人々が楽しめる祭りを目指しています。お楽しみイベントの一つとして、ステージイベントがあります。優雅なフラダンス、艶やかなベリーダンス、懐かしい音楽を奏でるバンド演奏などたくさんのステージイベントが行われ、来場者は楽しんでいました。



優雅なフラダンス



毎年好評のベリーダンス

〈たくさんの屋台〉

宮戸夏まつりでは、地域のおまつりとは思えないほどたくさんの屋台が立ち並びます。震災以降出店を続けている外部団体の屋台もありますが、一番目を引くのは、宮戸島内 4 浜の屋台です。4 浜対抗屋台合戦として、味、売れ行きなどで競い、優勝した地区には賞金が授与されます。そして、今年は初めてJICAブースを出店し、アフリカ各国で食べられているサモサを提供しました。長期研修員として東北の大学院に通う研修員 5 名と青年海外協力隊経験者 4 名に協力をいただき、国際協力事業を紹介し、地域住民と交流の機会を設けることが出来ました。



【JICA ブース】

研修員は日本の祭りを楽しみました。



【屋台の様子】

15時の開始から夜まで賑わいました。

〈フィナーレは打ち上げ花火！〉

お祭りの後半には、やぐらを囲んで「宮戸音頭」を踊ります。地域の子供から大人、高齢者までみんなで宮戸島音頭を踊ります。そして、フィナーレを飾るのは「打ち上げ花火」です。毎年恒例のこのイベントは、打ち上げ場所が近く、迫力のある、それでいて綺麗な夜空を楽しむことができます。宮戸の花火は好評で、地域住民だけでなく、東松島市内各地より多くの人が集まり、毎年来場者数は増加しています。



宮戸音頭は宮戸住民なら誰もが踊れます。



住民が毎年楽しみにしている打ち上げ花火

これまで宮戸各地で行われていたお祭りは、震災以降は宮戸夏まつりとして宮戸島一丸となって行われています。子供から高齢者まで広い世代が交流を行い、また宮戸島太鼓や宮戸音頭など、地域の文化を伝承する場所にもなっています。こういったお祭りを継続し地域住民の交流の場として、また地域住民の方と海外からの留学生、研修員等、外部との交流が出来る機会として、JICAは協力を続けていきたいと思えます。

【推進員だよりバックナンバー：JICA 東北ホームページ】

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

JICA は、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団(NPO)等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
